

2011年度(平成23年度)

社会福祉法人アンビシャス事業報告

法人理念

『どんなに障がいが高くても、自己選択・自己決定・自己責任において、自分が望む地域で暮らせる社会を目指す』

基本方針

1. 私たちは、障がいを持つ方の「地域移行」「地域生活」「日中活動」を支援します。
2. 私たちは、このような社会を実現するための運動をしていきます。
3. アンビシャスは、障がい者自らが地域生活における力をつけるため、学び・考え・実践し、社会の中での役割を持ち一歩踏み出す場とします。

アンビシャスを利用する障がい者の皆さんへ

1. アンビシャスは、地域社会で自立していくための人生の通過的な場です。生きていくための自信と力が付き、次の目標が決まった時には、アンビシャスに限らず色々な所でその“力”を発揮していきましょう。
2. アンビシャスでは、手足が不自由だからと言って、障がい者ではありません。皆さんが得てきた経験や知識、持っている力をアンビシャス、そしてここで働くスタッフや仲間に分け与えて下さい。
3. 街をぶらつき歩くことも障がい者にとって大切な仕事です。街に行くと必ず壁にあたります。壁を取り払うのは障がい者だからこそ出来る仕事であり、社会を変える運動です。
4. 障がいの有無に関係なく、お互いに助け合って活動をし、学びあい、社会に発信していくことを大切にしましょう。
5. このような取り組みを率先して行っていきましょう。

目 次

生活介護事業所「自由工房」	1
生活介護事業所「デイサービスセンターいるか」	4
生活介護事業所「フルハウス」	7
障がい者福祉ホーム「ステップ6・2」	10
居宅介護事業所「アンビシャスケアセンター」	14
相談支援事業所「相談室すきっぷ」	18

生活介護事業所 自由工房（2011年12月まで旧法身障通所授産）

2011年度 事業活動報告

事業方針

生活を楽しく豊かにすることについて考え、他者とのかかわりを通してできることを増やす。
積極的に社会とかかわり参加すること。自信をつかんでいく場所であること。
生産・販売活動を通じ可能性の追求と自己実現を目指すこと。

重点項目

健康体操や休息によって日々体の調整をはかること。
創作的活動や余暇的活動によって自己回復やエネルギーの充填をはかること。
新体系への移行

報告内容（今年度の成果・反省）

全体的な報告内容

年度当初に6名の新しいメンバーを迎え、スタッフ体制は当初の常勤2名から、5月に非常勤1名、8月に常勤1名が加わり、4名の体制に強化された。活動では、喫茶コーナーの新装開店、おかし工房の訪問販売の促進、また2年目となるいちご通信の編集作業の発展などに力を入れ、新しい事には着手できなかったが、目前の目標に対して奔走した一年であった。

いくつもの活動が同時進行する中で皆に共通する時間、作業療法士に来ていただき行なう健康体操の時間や、スタッフとの関わりの中で何かを学ぶ時間に、メンバーの表情は明るく輝いていた。そういった関わりの中で、少しずつ表情や行動の面で明るく変化を遂げる方も見られた。またメンバー同士では、作業活動以外に自主的に防災やマナーについての話し合いが行なわれ、次年度に繋がるメンバーの主体的なプログラムも生まれた。

次年度は、メンバー一人ひとりの思いを細かく聞き取りながら、現在の作業活動の充実と余暇の時間学びの時間の確保、将来に向けての親元からの自立のサポートにも力を入れて取り組んでいきたい。

健康体操

月2回作業療法士に来ていただく事ができメンバーに大変好評であった。メンバーもスタッフも皆で健康体操の効果について理解を深める事ができた。今後の課題として、健康体操をより身近なものとして取り組めるよう、日々の活動にスタッフによる健康体操の導入や車いすを下りて過ごす時間をつくるなど、二次障がいの予防やメンバーの体調管理にプラスとなる環境整備に努めたい。

創作や余暇を楽しむ活動

陶芸や創作の時間は、メンバーとスタッフ、ボランティアとのよいコミュニケーションの場であり、また作品が売れると喜びに繋がっていた。ただビーズ創作に対して十分にサポートができず次々と作品を作っていくことができなかった。余暇を楽しむ活動についてメンバーからは「外出企画が少ない」、「スタッフと話せる時間が少ない」との声が上がった。販売以外での社会との交流も少なく、活動を通しての社会参加の機会は少なかった。来年度は、メンバーとスタッフが集い会話を楽しみながらできる創作や、メンバーと協同で企画する外出を計画的に実施し、社会との交流も増やしたい。

利用者の動き

4月に旧フルハウスメンバーとの合併もあり利用者数は増加した。しかし、新たな問い合わせや実習依頼は昨年度よりも減少した。また、売上の減少が課題となっていた「おかし工房」は12月末に終了し、工房で活動していた利用者の内2名が他の事業所に移ることになった。

利用者数の維持・確保を目指し、積極的な営業活動が必要である。

新体系への移行（旧法授産から生活介護へ）

昨年度より説明を重ねてきた生活介護への移行は、年末を目標に手続きについての案内を行なった。予定していた移行時期に事業所登録が間に合わなかった点や、障害程度区分が出ない方や区分1・2の経過措置の方もいたが、24名のうち23名が生活介護の利用をスタートし、1名が退所した。

部分的な報告

菓子製造

- ・ 菓子製造は12月末に終了した。自由工房で最も利益が多く工賃を支払える活動であったが、場所が離れていた為、スタッフ2名の体制では活動中のサポートが不十分な状態であった。決まったメンバー3名が主となり菓子製造を行っていたが、スタッフからメンバーの話や日中活動の観察がなかなか出来ず、メンバーにはストレスが溜まる環境だったかと思う。
- ・ しかし、「自己決定」や「自分で考えていく」という面では一番よい環境だったかと思う。販売の為、多くの人達や地域の人達と交流する事ができ、また、自身のなかで何かひとつ「自信」がつけられたと思う。

《閉店までの経緯》

- ・ 2年前頃より売上が下降傾向にあった。就業時間10時～16時で一月1万～1万5千円程度。
- ・ 11月、施設長より今後の活動の展望としては「企業との連携をする必要がある」、しかし「現在の形ではそれは難しい」との判断を下し、メンバーの意向を確認した。
- ・ メンバーとの話し合いの結果、12月21日付の閉店を決定した。
- ・ メンバー3名のうち2名は就労継続支援A型事業所へ移行した。

販売活動

- ・ 訪問販売活動・バザー出店に力を入れた。（前年度の月3回から月5回に増やした。）接客体験はメンバーにとって他事業所や一般客との接点もあり刺激になった。販売に活かす学習として接客マナーについての勉強会も実施し、さらに高い意識をもって接客の仕事を楽しむ事ができたのもよかった。
- ・ 来年は販売の機会は減るが、喫茶やバザー品販売にて接客の経験ができる機会は設けていきたい。

喫茶活動

- ・ 新たなメンバーにより喫茶を開店させた。前半はボランティアの協力があり営業をスムーズに行なえたが、後半はボランティアが来られなくなりメンバーのみでの営業を行うようになった。車いすのメンバーが受け付け・ドリンク作り、独歩のメンバーが食器のセッティングや後片付け、ウェイターなどを行う体制でシフトを組んだ。メンバーのみでの営業には不安があったと思うが、互いに補い合い、新しいメンバーを増やして実施してきたことで、できる事を増やし自信にもなった。
- ・ 来年は外部の方にも利用してほしいというメンバーの希望に応えられるよう営業体制を整えたい。

自立生活プログラム / ピア・カウンセリング

- ・ 震災の事もあり、「自分がどう生活していけばいいのか?」「どのようにネットワークを増やしていけばいいのか?」などの自身を見つめ直すILP活動は多くとれた。
- ・ 防災について(6月、12月、その他) 物件探しについて(7月福祉ホーム主催)
- ・ マナーについて(12月) ピア・カウンセリング(ちえりあ開催)『障がい者と原発』

次年度に向けた取り組むべき課題

- ・ 利用数の確保
- ・ 利用者のニーズの整理と自由工房の柱の確立
- ・ 社会との接点を増やす
- ・ 本人と家族との間に入っての自立に向けたアプローチと支援
- ・ 活動面の支援と生活に関する支援の両立

事業の実施状況

1-1 支援費区分・等級・性別区分表 (2012/3/31付)

単位:人

支援費区分	区分6	区分5	区分4	区分3	区分2	区分1	非該当	合計
人数	5	7	3	4	2	1	1	23名
等級	1級	2級	3級	合計				
人数	18	2	3	23名				

1-2 年齢別メンバー数 (2012/3/31付)

単位:人

性別 \ 年齢	年齢			合計	平均年齢
	15~24	25~34	35~44		
男性(名)	3	6	1	10	28歳
女性(名)	5	7	1	13	26歳
合計(名)	8	13	2	23	27歳

1-3 2011年度月別利用状況(2012/3/31付)

単位:人

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
初日在籍者数	27	27	27	26	26	26	24	24	24	23	23	22	299	25
開所日数	20	19	22	20	22	21	20	22	19	18	21	21	245	20
延利用者数	408	395	415	405	434	389	380	381	347	328	345	329	4556	380
1日平均利用数	20	20	18	20	19	18	19	17	18	18	16	15	218	18
前年度比	+3	+2	±0	+2	+2	±0	+1	±0	+1	+1	-1	±0	+13	+1

- ・ 過去3年の一日平均利用者数

2009年度 15名

2010年度 17名

2011年度 18名

指定生活介護事業所 / デイサービスセンターいるか

2011年度 事業活動報告

事業方針（事業計画で掲げた当該年度の項目を箇条書きで）

- 安定した継続運営の実施。
- 法人理念に則したサービス（支援）実施。
- 身体状況を把握した個別の介助。

重点項目（事業計画で掲げた当該年度の項目、目標数値等を箇条書きで）

- フリー登録制度を活用し利用率を維持する。
- 登録者状況を踏まえた上での新規者の受入れをする。
- 法人理念の周知をする。
- 個別の身体状況を把握する。

報告内容（今年度の成果・反省）

登録者数について

- ・年度当初は登録者数59名（月曜日17名、火曜日17名、水曜日16名、木曜日15名、金曜日17名）であった（年間利用解除者数10名、新規登録8名）欠席が生じた場合にフリー登録制度で各曜日の定員数をカバーする事で安定的な利用者数を確保する予定だったができなかった。
- ・体調不良や長期入院者が発生し、フリー登録者だけでの利用者確保が出来ず利用者数が落ち込んだ。
- ・利用解除者が発生した後の待機者へのアプローチがスムーズに実施出来なく新規登録へ繋がられなかった。

法人理念について

- ・サービス（支援）を実施していく中で、できる所は自分でして頂き、できない所をケアするといった法人理念の認識が薄れてしまった方。反対に自分自身の状況を踏まえて積極的に行動と活動をしていく方など、認識の違いが生じていると感じた。これにより、同じサービス（支援）を実施、提供しても受け取り方の違いが生じた為、利用者と携わるスタッフ間で改めて共通認識を持つ為に確認作業を行った。
- ・法人理念を理解し、介助、日中活動や企画、そのほか様々な場面ではスタッフの対応能力の向上が必要であると感じ、アンビシャスの「いるか」らしさを作っていく為にも、理念の確認と利用者への周知、支援の在り方や方法について考えていく機会を継続的に設けていかなければならない。

事故、ヒヤリハットについて

入浴場面での発生が多かった。その都度、内容を振り返り同じ事が起こらないように介助方法や器具の使用方法を確認する。

- ・事故6件（入浴2、転倒1、移乗1、移動1、その他1）
- ・ヒヤリハット7件（入浴4、移乗1、送迎1、食事1）

次年度に向けた取り組むべき課題

- ・利用率の増加を図る。
- ・法人理念を踏まえ当事者エンパワメントを引き出し楽しく過ごせられるようにサービス（支援）を実施する。
- ・安全、安心、安定した個別性を持った介助を提供する。

2011年度 月別利用状況

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
新規登録者	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	4	1	8	0.7
利用解除者	0	0	0	0	2	1	0	2	1	3	0	1	10	0.8
登録者数	59	59	59	59	57	56	57	57	56	53	57	57		57.2
月利用実人数	56	55	59	56	55	53	54	54	54	49	50	52	647	53.9
開設日数	20	18	22	20	22	20	21	20	19	18	21	21	242	20.2
入浴サービス日数	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2	0.2
開設総日数 (入浴サービス含む)	20	18	22	20	22	20	21	20	21	18	21	21	244	20.3
通常日利用者延数	279	268	302	271	291	269	283	274	245	230	243	255	3210	267.5
入浴サービス 利用者延数	0	0	0	0	0	0	0	0	14	0	0	0	14	1.2
延利用者総数	279	268	302	271	291	269	283	274	259	230	243	255	3224	268.7
通常営業利用平均 (企画除く)	14.0	14.1	13.9	12.6	12.7	13.7	13.2	13.3	12.3	12.1	11.6	12.7	156.2	13.0
全営業利用平均 (祝日含)	14.0	14.1	13.7	13.6	12.6	13.5	13.5	13.7	11.8	12.1	11.6	12.1	156.3	13.0
男性延べ	153.0	153.0	159.0	142.0	154.0	142.0	158.0	152.0	144.0	127.0	127.0	139.0	1750.0	145.8
女性延べ	126.0	115.0	143.0	129.0	137.0	127.0 ⁵	125.0	122.0	115.0	103.0	116.0	116.0	1474.0	122.8

2011年度

年齢別利用者数

	15～24	25～34	35～44	45～54	55～64	65歳以上	合計	平均年齢
男性(名)	0	1	2	4	11	9	27	60.7
女性(名)	1	3	6	4	8	8	30	53.9
合計(名)	1	4	8	8	19	17	57	57.1

障がい等級

	1級	2級	3級	4級	5級	6級	合計
男性(名)	15	10	0	1	0	1	27
女性(名)	19	9	1	1	0	0	30
合計(名)	34	19	1	2	0	1	57

障がい程度区分

	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
男性(名)	4	8	4	4	7	27
女性(名)	6	13	2	4	5	30
合計(名)	10	21	6	8	12	57

2011年度末(2012年3月31日現在)の数値で算出しています。

年間企画活動報告

4月	10月
・陶芸 / 8回 ・絵手紙 / 2回 ・車いすダンス / 2回	・陶芸 / 8回 ・絵手紙 / 2回 ・車いすダンス / 2回 ・曜日別企画(火曜日)小樽ウイングベイ買物 ・1泊2日温泉旅行 / 湯元第二名水亭
5月	11月
・陶芸 / 8回 ・絵手紙 / 2回 ・車いすダンス / 2回 ・茶話会 / 5回	・陶芸 / 7回 ・絵手紙 / 2回 ・車いすダンス / 2回 ・調理 / 2回 ・ナイトサービス / ガートーキングダム
6月	12月
・陶芸 / 8回 ・絵手紙 / 1回 ・車いすダンス / 2回 ・曜日別企画(水曜日)地下歩行空間散策 ・バーベキュー	・陶芸 / 5回 ・絵手紙 / 2回 ・車いすダンス / 2回 ・クリスマス忘年会
7月	1月
・陶芸 / 5回 ・絵手紙 / 2回 ・車いすダンス / 2回 ・バーベキュー ・曜日別企画(木曜日)サッポロビール工場見学	・陶芸 / 4回 ・絵手紙 / 2回 ・車いすダンス / 2回 ・茶話会 / 1回
8月	2月
・陶芸 / 7回 ・絵手紙 / 2回 ・車いすダンス / 2回 ・曜日別企画(木曜日)アサヒビール工場見学	・陶芸 / 8回 ・絵手紙 / 2回 ・車いすダンス / 2回 ・鍋パーティー
9月	3月
・陶芸 / 7回 ・絵手紙 / 1回 ・車いすダンス / 2回 ・曜日別企画(月曜日)発寒ジャスコ買物 ・ながつきフェスティバル	・陶芸 / 7回 ・絵手紙 / 2回 ・車いすダンス / 2回 ・調理 / 1回 ・買物、映画外出(札幌駅周辺)

指定生活介護事業所 フルハウス
2011年度 事業活動報告

事業方針（設立主旨）

- ①地域で暮らす重度障がいを持つ方の日中活動の場を保障し、給食・送迎・レクリエーション・健康維持活動の基本サービスを中心に、日々の生活を楽しく豊かにするために個性を活かしたさまざまなプログラムや社会参加に向けた取り組みを行ないます。
- ②札幌いちご会・アンビシャスの理念で謳われている『どんなに障がいが重くても地域で暮らしていけるように』という理念に叶える為にも最も重度と言われる人達が出来ただけ長く住み慣れた地域で暮らす事が可能になる場所でありたい。

重点項目

①スタッフ体制

サービス管理責任者1名（いるかと兼務）常勤スタッフ2名・非常勤スタッフ1名、非常勤看護師2名
※利用者数の状況に合わせた人員配置となります。
※日中活動のボランティア募集を行います。

②利用者の募集

利用対象者イメージ

- 全身性の障がいで常時ケアを必要とする方
- 意思疎通がほとんど困難な方

利用状況イメージ

○利用者受入枠 1日6名（実績一日目標人数4～6名）

（例）

	曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
医療ケア無		4名	5名	6名	2名	4名
医療ケア有		1名			2名	
計		5名	5名	6名	4名	4名

③活動内容

◎重度の障がいに合わせ五感刺激を取り入れた活動として健康体操、創作活動（制作・音楽・調理体験）、外出活動を行なう。

報告内容

2011年6月より生活介護事業所「デイサービスセンターいるか」の従たる事業所として生活介護事業所「フルハウス」はスタートしました。

●利用者確保について

成果

- ・6月開所時には、まずニーズのあった地域の重度障がい者及びこれまで他事業所を利用していたが更に週の利用回数を増やしたい方を合わせ6名の利用者確保する事が出来た。
- ・活動実績を評価して頂き利用回数を増やしてくれる方がいた事。

反省

- ・開所当初の6名以降新規利用者を獲得する事が出来なかった。

・予想より登録者の延べ利用日数が増えなかった。

(原因)

- ・年度途中の開所という事もあり、学卒者の進路がすでに決まっていた。
- ・西区手稲区にある区役所窓口、居宅介護事業所、訪問看護事業所、相談事業所、札幌市にある養護学校等への訪問・パンフレットの送付等は行なった新規利用者の掘り起こしにはつながらなかった。
- ・ニーズがあると言われながら事前に利用予定者の正確な数字を把握しておく事が出来なかった。
- ・重度の障がいの為体力面・医療面等の問題から利用回数を増やせない方、体調を崩すと長期の休みや入院につながる方、新規事業所という事もあり利用回数増を慎重に考えた方も多かった。

(結果)

- ・利用人数が当初の予定を下回った為、見込んでいた収入を得る事が出来なかった。

『2011年度』月別利用状況

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
新規登録者			6	0	0	0	0	0	0	0	0	2	8	0.8
利用解除者			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
登録者数			6	6	6	6	6	6	6	6	6	8		6.2
月利用実人数			6	5	5	6	6	6	6	6	6	8	60	6.0
開設日数			22	20	22	20	20	20	19	18	21	21	203	20.3
利用者延数			29	23	28	32	29	28	28	31	37	60	325	32.5
一日利用平均			1.3	1.2	1.3	1.6	1.5	1.4	1.5	1.7	1.8	2.9	12.1	1.7

●利用者状況について

曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
医療ケア無	1名	2名	1名	1名	
医療ケア有	3名	3名	3名	1名	3名
計	4名	5名	4名	2名	3名

<2012年3月末現在登録者>

※医療ケアの主な種類

(痰吸引・経管栄養・吸入)

- ・当初の想定より医療ケアを必要とする方が多かった。

●スタッフ体制について

成果

- ・非常勤看護師2名を開所当初から医療ケアの必要な方の利用日に合わせ配置する事が出来た。
- ・ボランティアを数名確保し、日中活動支援等にあって頂く事が出来た。

問題点

- ・利用人数が増えると2台の送迎体制の確保と医療ケア対応上一日最低4名のスタッフが必要となる。
- ・スタッフの欠員が出ると他部署からの応援が必要になる。
- ・活動内容の充実を図る為にはボランティアを更に集める必要がある。
- ・医療ケアを必要とする利用者が多い為、看護師以外のスタッフも医療ケアを行なう場面が多くなる。

●活動内容

◆健康体操（個別のプログラムを基に実施）



◆スポーツ・レクリエーション



レク：1月風船羽つきゲーム



スポーツ：10月ボーリング場にて

◆創作活動（音楽・調理体験・絵画・その他）



調理：10月スイートポテト作り（毎月実施）

音楽：楽器演奏「ベース楽器を弾いてみよう。」（随時実施）



絵画：9月動物（りす）を描きました。（毎月）



完成作品

◆外出（随時実施）



◆外出行事

（円山動物園 9/27、28 実施）



◆スヌーズレン

（3/1 導入）



次年度に向けた取り組むべき課題・目標

①事業方針に基づき、環境・体制を踏まえ最大限の利用者の受け入れを目指す

『一日あたりの安定した利用者数の確保（一日利用平均4名）』

- ・区役所・養護学校・相談室・居宅介護事業所・訪問看護事業所等へのPR活動
- ・養護学校の進路教諭との連携のもと、卒後の進路先調査と体験実習の積極的な受け入れ

②日々医療ケアを安心して受けられるようスタッフのケア技術の向上を目指す

・研修資格取得と日々の活動時間の中で看護師の指導の下医療ケアを実際に行う

③医療ケアの必要な人も無い人も可能な限り個々の状況に合わせたタイムスケジュールや落ち着いた環境の中で充実した活動が出来る事を目指す

- ・利用者数や活動に合わせたスタッフ体制の配置
- ・個別支援計画内容の日々の継続と個別支援の充実

障がい者福祉ホーム ステップ6・2

2011年度 事業活動報告

事業方針

主体性のある生活の理解とその重要性
地域における自立生活の実現を目指す

重点項目

目標設定と個別支援
施設で潜在化している対象者の発掘
地域移行希望者及び入退居者に対する支援
重度の障がい者の住まいの場

報告内容（今年度の成果・反省）

- ・今年度は、重度の障がいのある方の受け入れに伴い、体験の実施から法人他事業を含めた包括的な支援体制の整備に取り組んできた。現在においても、ケアについては十分な体制を取れている状況ではない為、継続的な課題として取り組んでいきたい。
- ・個別面談については年2回実施し、日頃の生活相談から制度上の活用方法や将来的な方向性の確認をする事ができ、自分が主体的に考えながら生活を組み立てていく事の重要性を再確認して頂く機会ともなった。
- ・自立生活体験室の受け入れと、札幌市地域移行体験事業の紹介や活用といった取り組みを通年で行ってきたが、実際にホーム入居するまでに至らないケースも数件あった。
- ・実践者として自立生活をしているホーム入居者と施設等を訪問し、潜在化している地域移行希望者の発掘を予定していたが、ホーム担当職員からの広報はできたものの、依頼していた入居者が入退院していた事もあり、実践者による啓発的な取り組みは実施する事ができなかった。
- ・ここ数年、世帯部屋の利用ニーズが低調な事もあり、入居定員を20名から18名に10月から変更した。なお、世帯部屋の活用方法については入居者の交流スペースとして使用する事とした。
- ・社会福祉施設等耐震化等整備推進事業の助成を受け、3月末にホーム全居室に外付けのスプリンクラーを設置した。
- ・1年半前より自殺未遂により障がいを持った方が入居していたが、この間においても数回にわたって過剰な自傷行為が見られた為、ホーム（個室）での生活環境は非常に危険性が高い事もあり実家への退居とした。その後はメンタル的な支援の必要性がある事から、専門機関とも連携し関わりを継続している。

次年度に向けた取り組むべき課題

- ・入居条件（契約期限と家賃設定）の見直し
- ・地域移行希望者の発掘と体験室の活用
- ・法人他事業との連携による重度の障がいのある方の体制整備

2011年度利用実績

2012年3月31日現在

1. 月別入退居状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
初日 入居者数	12	13	12	12	12	13	13	13	13	14	13	12
入居者数	1				1	1			1			
退居者数		1				1				1	1	

【退居者：4名】

退居日	性別	年齢	障がい名	退居後の動向
5/21	男性	62	頸椎損傷	西区の一般アパート。
9/18	男性	35	脊髄小脳変性症	西区の一般アパート。
1/30	女性	22	脳挫傷による左上下肢機能の障がい	西区の実家へ。
2/29	女性	29	ビタミンD抵抗性くる病による 体幹機能障害	西区の一般アパート。

【入居者：4名】

入居日	性別	年齢	障がい名	入居前の生活
4/3	女性	57	両混合性難聴、視覚障がい	実家
8/17	男性	43	ファール症候群	実家
9/21	女性	29	ビタミンD抵抗性くる病による 体幹機能障害	病院
12/15	女性	52	全身性エリテマトーデス	病院

2. 開設時からの実績(2000年4月~)

- ・利用者総数：62名(内、2012年3月31日現在の利用者12名)
- ・退居後の移行先(退居者50名)

アパート	市営住宅	共同住宅	家族と同居	病院	入所施設	その他	合計
29	6	2	9	2	1	1	50

3. 利用年数別入居者数

	1年未満	1~2年	2~3年	3~4年	4~5年	5年~	合計
男性	1	2	1	1	3	1	9
女性	1	1	1	0	0	0	3
合計	2	3	2	1	3	1	12

4. 年齢別入居者数

性別	15~24	25~34	35~44	45~54	55~64	65歳以上	合計	平均年齢
男性	1	0	1	2	4	1	9	52.7歳
女性	0	0	1	1	1	0	3	49歳
合計	1	0	2	3	5	1	12	51.8歳

5. 障がい種別

種別 等級	脳性マヒ	脳血管 障がい	ポリオ	フェール 症候群	頸椎損傷	両混合性 難聴 視覚障がい	全身性 エリテマト ーデス	多発性 硬化症	ろうあ
1級	1	2	0	1	1	1	1	1	0
2級	2	0	1	0	0	0	0	0	1

6. 自立生活体験室利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
利用者数	1	2	5	2	3	4	4	6	1	1	2	1
うち自立 体験	0	1	2	0	2	2	2	3	0	0	1	0
利用 日数	2	5	26	6	10	16	32	30	5	3	5	4

2011年度年間活動報告

5月	25日	防災訓練
6月		個別面談
7月	25日	I L P : 物件の探し方
9月	4日 8日	ながつきフェスティバル2011 消防設備点検
10月	4日 28日	防災訓練 「原発事故と災害弱者」をテーマにした講演会
11月		健康診断（インフルエンザ予防接種）
12月	16日	クリスマス忘年会
1月		個別面談
2月		スプリンクラー設置工事（各居室）
3月	17日 26日	重度障がい者の地域生活と介助に関する講演会 ホームの集い

社会福祉法人アンビシャス アンビシャスケアセンター

2011年度 事業活動報告

事業方針（事業計画で掲げた当該年度の項目を箇条書きで）

- 重度の障がいを持つ方への支援体制の整備
- 常勤ヘルパーの雇用、安定した派遣と質の高いケアの提供

重点項目（事業計画で掲げた当該年度の項目、目標数値等を箇条書きで）

- ホームに入居される意思疎通の困難な方（夜間ケア）を対象にヘルパー体制を整備する。
- 様々な支援に柔軟に対応できる体制を目指し、常勤ヘルパーの体制作りを目標とする。

報告内容（今年度の成果・反省）

全体的な報告内容

今年度は新規利用者11名・契約解除7名（内、共同住宅転居2名、派遣地域外への転居2名、ホームより転居1名、契約更新なし1名、死去1名）3月末現在の利用者数は45名となった。

ヘルパー数は常勤ヘルパー3名、非常勤ヘルパー24名小山内ヘルパー10名での活動となった。

総派遣時間数は前年度の21,038時間を730時間下回り20308,5時間となってしまった。ヘルパー不足により前半は全く新規受入れが出来ずに経過していたなか、常勤ヘルパーの雇用による新規受入の拡大や重度の障がいを持つ方への支援スタートなどで、前半の落ち込んでいた期間から、後半に少しずつ利用者を増やす事が出来、3月末までに約300時間増となり成果に繋がった。

重度障がいを持つ方への支援を法人3事業による複合サービスで提供を行い、8月からホームでの自立生活をスタートした。入居前より誤嚥性肺炎や熱発など体調面の心配があったが、大きな体調の変化もなく経過している。

ヘルパーの夜間勤務体制、休日や体調不良時のケア調整など課題も見え始め、柔軟な対応を支援していくためのスタッフの確保が必須であり、安定した支援体制の整備に取り組んでいきたいと思う。

常勤ヘルパーの体制作りについては、3名の常勤ヘルパーを4月から雇用して体制を整えたが、1年を経過して2名の常勤ヘルパーから非常勤ヘルパーへの変更となってしまった。体力的・精神的にきつく感じたり拘束時間が長いなどの理由である。常勤として勤務に携わった方の声を踏まえて、勤務時間や労働条件の見直しと検討を行い新規雇用時に活かしていきたい。

部分的な報告内容

常勤ヘルパー

- ・夏季、冬季ともに期間内での休暇調整が大変だったため、取得方法の検討と調整が必用。
- ・3名の常勤ヘルパーを雇用した事によりスムーズな調整と派遣が出来たが、全体的にヘルパー不足な事もあり調整に苦慮した。事務所スタッフが代行で派遣に入る事が多かった。

非常勤ヘルパー

- ・常勤ヘルパーとの利用者に関する情報収集に時間を取り、必要な情報を聞き取る事が出来たが、非常勤ヘルパーにとっては事務所に気軽に立ち寄れる雰囲気ではないとの声もあり、円滑な情報共有へと繋がらない事も見られた。ケア内容や支援方法の確認作業が行える、開放的な空間作りに努めていかななくてはならない。

スタッフの派遣について

- ・月平均15～20時間の派遣を予定として組み込んでいたが、急遽の代行や単発派遣など含めると月30～40時間となり、取り組むべく事業の準備や利用者・ヘルパーとの情報共有、スタッフ間の連携などを行う時間がとれなかった。さらに、8月からサービス提供責任者1名が週1回の夜勤にシフトした為、スタッフ間の情報の共有や担当利用者の把握等、実質週3日の勤務状況の中では流れが途絶えてしまう事も多々あり、常勤スタッフが1名少ない状況での事業体制と連携については困難さの感じられる1年でもあり、今後の課題として残っている。

研修内容の検討

- ・今年度のヘルパーミーティングは3回行った。(医療的ケア、札幌市出前講座～火災について～、ひやりはっと事例検討会)外部講師依頼による研修を2回行い一定の成果は得られたと思うが、研修の充実を図るには回数と内容と共にまだまだ足りなく、来年度に向けて、特定事業所加算に関わる研修を含めた様々な視点による研修内容を計画し実施していきたいと思う。特に在宅生活の医療ケアの必要性を改めてヘルパーへ伝え、ヘルパーが行える医療ケアの定着を図りたいと思う。

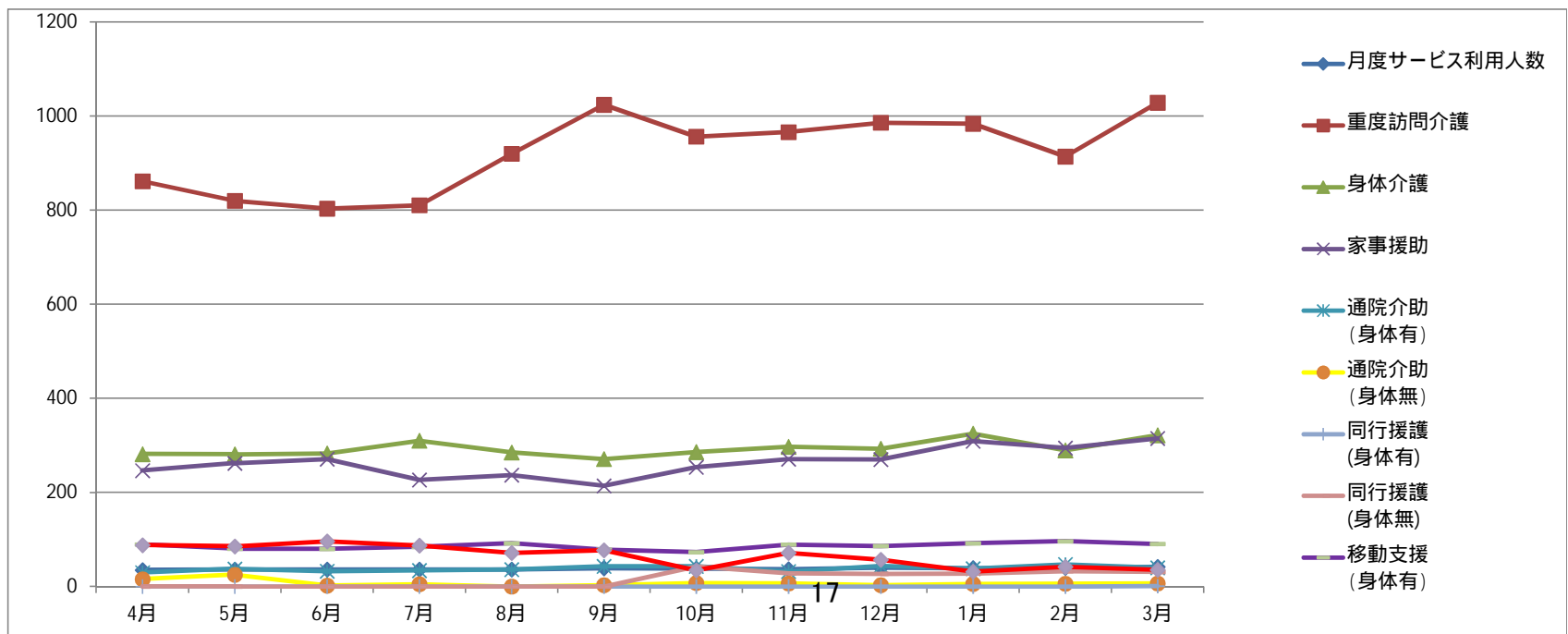
次年度に向けた取り組むべき課題

- ・安定した派遣と質の高いケアの提供
(特定事業所加算取得に向けた環境整備)
- ・重度の障がいを持つ方への支援体制の整備

サービス別利用人数集計表

	実利用者数	重度訪問介護	身体介護	家事援助	通院介助 (身体有)	通院介助 (身体無)	乗降介助	同行援護 (身体有)	同行援護 (身体無)	移動支援 (身体有)	移動支援 (身体無)	総サービス利用者合計数
4月	35	8	15	13	6	2	2	0	0	3	7	56
5月	36	7	15	16	8	1	2	0	0	4	7	60
6月	36	7	16	16	5	1	1	0	0	2	9	57
7月	36	7	17	14	7	1	1	0	0	5	7	59
8月	36	8	13	14	5	0	1	0	0	6	7	54
9月	39	10	14	16	8	1	1	0	0	3	8	61
10月	38	10	15	15	8	2	1	0	2	3	6	62
11月	37	9	15	15	5	2	0	0	2	3	7	58
12月	40	9	16	16	8	1	1	0	2	4	7	64
1月	39	10	16	17	6	2	1	0	2	4	6	64
2月	40	11	16	17	8	2	1	0	2	5	6	68
3月	42	11	17	18	7	2	1	1	2	5	5	69
合計	454	107	185	187	81	17	13	1	12	47	82	732

月別	月度サービス 利用人数	重度訪問介 護	身体介 護	家事援 助	通院介助 (身体有)	通院介助 (身体無)	同行援護 (身体有)	同行援護 (身体無)	移動支 援 (身体有)	移動支 援 (身体無)
4月	35	861.5	281.5	246.5	29.5	15.5	0	0	89.5	88
5月	36	820	281	262	37.5	25	0	0	80.5	85.5
6月	36	803.5	283	271	32.5	2	0	0	80	96
7月	36	810.5	310	226.5	34	5	0	0	84.5	87
8月	36	920	285	237	36	0	0	0	92	71.5
9月	39	1024	271	214	43	3	0	0	78.5	77
10月	38	956.5	286	253.5	43	7.5	0	42.5	73	34.5
11月	37	966	297	271	32	6.5	0	28	89	71.5
12月	40	986	293	270	44	3	0	27	86	57
1月	39	984	325	309	38	5.5	0	27.5	92	31.5
2月	40	914	289.5	294.5	47	6	0	32.5	96.5	42
3月	42	1028.5	321.5	315	40	6.5	1	31	90.5	35.5



札幌市障がい者相談支援事業 相談室すきっぷ

2011年度 事業活動報告

< 事業方針 >

障がいを持つ方に対し、その種別に関わらずあらゆる相談の身近な窓口として支援を行なう。本人支援を基本として、そこからつながる家族、関係者、地域の方への相談支援も状況に応じ行う。本人につながるフォーマル、インフォーマルなあらゆる機関と必要に応じて支援が行なえるような場を積極的に設定する。本人を尊重し、可能な限り地域での自立的な生活を支援していく。

< 重点項目 >

- ・ 専門（身体）以外の障がい種別の方々の相談に対してより理解を深める。
- ・ 他の相談支援事業所との連携強化を図る。
- ・ 変わりゆく福祉制度について各種制度の利用者がその動きを正しく理解し、適切なサービスを受けられるよう支援する。
- ・ 複数の社会資源を母体を持つ相談室として、つながりのあるケースについて積極的にスタッフ間で調整会議などを行う。

< 報告内容 >

今年度は東日本大震災の被災地派遣や札幌で起きた孤立死の事件など、“相談支援とは？” “地域とは？” について相談室として考えさせられる一年となった。これらの出来事から、自分たちは何を学んで、何をすべきなのかを立ち止りながら確認していかなければならないと考えている。データ（下記表参照）として見ると相談件数は増加しており、身体障がい以外の件数も年々増えている。もちろん障がいを重複しているケースも多いので相談内容も複雑で多くの関係機関との調整が必要になるなど長期化することもある。また、区役所の窓口や民生委員、病院のワーカーから相談室を紹介してもらうなど、少しずつ地域の相談窓口として認知されつつあるのかもしれないが、問題解決への迅速な対応のために今後もさらに相談体制の充実を考えていくことが必要である。

前年度との相談件数の比較

	身体	知的	精神	その他	合計
2010年度	850	408	157	132	1,547
2011年度	878	796	269	155	2,098
前年度との比較	1.03倍	1.95倍	1.7倍	1.17倍	1.35倍

相談事例の紹介

- ・ 高齢の母と知的障がいの子の2人暮らしの世帯の虐待が疑われたところから福祉サービス利用への支援
- ・ 一般就労していたが、引きこもりになり発達障がいの判定を受けた方の年金申請と就労への支援
- ・ 傷害事件を起こして保護観察を受けている知的障がいの方の住居の場と就労への支援
- ・ 親族と疎遠になっている身体障がいの方の急性白血病の再発によるターミナルケアの支援

<事業の実施経過>

夏・体験プログラムについて

これまで毎年、養護学校高等部の在校生を対象にボランティアを呼びかけて自立生活体験を企画していたが、今年度は呼びかけに対して参加者の希望が集まらず実施できなかった。案内周知の方法や開催時期、対象者（意志疎通が可能な人）についても来年度以降も検討が必要となる。

地域自立支援協議会西区部会について

昨年2月28日に西区地域部会が立ち上がり事務局として運営に携わっている。今年度は「集う、つなげる、広がる」をスローガンに7月に地域交流会が開催され、西区の各事業者や障がい当事者の方々が約70名参加してくれた。顔の見える関係づくりを目指し、1月には「元気の出る交流会」と称して相談室の紹介やグループワークを行い、3月には「介護職員等によるたん吸引等の実施に向けた学習会及び実技研修会」を開催した。

相談支援専門部会の取り組みについて

今年度も事例検討プロジェクトチームとして他の相談支援事業所と一緒に事例検討会を開催した。実施回数は2回となった。そして、スタッフ交換研修が行われ、すきっぷには他の相談支援事業所から6名の相談員が研修で訪れている。すきっぷからは1名が他の相談支援事業所で研修をしてきている。現場の貴重な情報交換や交流ができ、つながりを持つきっかけとなった。また、2011年度より管理者である小貫の相談支援専門部会会長就任に伴い、事務局としての役割、札幌市地域自立支援協議会の委員に就任し、札幌市の公的な役割を担うこととなった。2月からは札幌市が設置を予定している基幹相談支援センターについて市へ提言していくための検討会を立ち上げ進めている。

障害程度区分認定調査について

研修を受けたスタッフが道内外の市町村に代わって入院・入所中の方の障害程度区分認定調査を行っているが、今年度は稚内市、小樽市、室蘭市、函館市、釧路町などから依頼を受け計40件の調査を実施している。遠方への調査も多かったため、来年度については調査の訪問先を西区の病院や施設を中心に受託しようと考えている。

被災地への相談員の派遣

東日本大震災の被災地派遣として宮城県石巻市・東松島市・女川町の石巻圏域の相談室へ5月から9月までの間、一週間ずつ計5回にわたりサポートに入った。まだまだ被災地域で

は課題が山積していると思われるが、地域が再生されていくための過程で相談支援が果たす役割について考えさせられている。

<次年度に向けた取り組むべき課題>

相談室の課題として、多岐にわたる相談支援としての対応に相談員それぞれの情報共有とケース対応のリスクマネジメントを意識しながら取り組むことがあげられる。これから始まる計画相談・障がい児相談支援や地域相談支援を行なっていくためにも相談援助技術のスキルアップはもちろんだが、これまで相談員それぞれが手探り状態で行ってきた支援について、タイムリーに把握できるよう記録や役割分担などの整理が必要である。相談室が事業として展開していくためにも方向性を確認しながら、本人主体の相談支援を実施していかなければならないものだと考えている。

札幌市障がい者相談支援事業実施状況報告書

報告日 平成23年4月～平成24年3月
事業所名 相談室すきっぷ

1 当月末における登録者の概況

前月末登録者数	当月新規登録者数	当月抹消登録者数	当月末登録者数
449	116	258	307

(区別内訳)

中央	北	東	白石	厚別	豊平	清田	南	西	手稲	市外	計
14	8	4	8	5	6	0	3	213	36	10	307

(障がい別内訳)

	身体	重心	知的	精神	発達	高次脳機能	その他	計
障がい者	109	1	70	52	18	3	5	258
障がい児	17		25		6		1	49
計	126	1	95	52	24	3	6	307

2 当月における相談支援(個別支援)の概況

(障がい別内訳)

身体						重心	知的			精神	発達					高次脳機能	その他	合計
肢体	視覚	聴覚	言語	内部	計		自閉	他	計		高機能	学習	ADHD	他	計			
811	18	4		45	878	1	85	711	796	269	27		11	79	117	14	23	2098

(支援方法別内訳)

訪問	来所相談	同行	電話相談	電子メール	調整・ケア会議	関係機関	その他	計
388	228	255	519	42	59	602	5	2098

(支援内容別内訳)

支援内容	件数	支援内容	件数
福祉サービスの利用に関する支援	1030	家計、経済に関する支援	248
障がいや病状の理解に関する支援	67	生活技術に関する支援	176
健康・医療に関する支援	148	就労に関する支援	103
不安の解消・情緒安定に関する支援	214	社会参加に関する支援	14
保育・教育に関する支援	26	権利擁護に関する支援	4
家族関係・人間関係に関する支援	68		
		合計	2098